

第2回システム性能を考慮した産業施設諸機能の耐震性評価研究委員会 (Phase2)  
議事録

■日時：平成26年8月29日 15時～17時

■場所：建築会館 307会議室

■出席者：高田（委員長：横浜国大），中村（幹事：篠塚研究所），新谷（福井大），古屋（東京都市大），吉川（東京都市大），【植竹（東京電力）】，【大嶋（千代田化工建設）】，大谷（IHI），境（安藤ハザマ），静間（篠塚研究所），副島（大林組），小淵（東京電力），【服部（東急建設）】，三浦（大林組），高橋（東京都市大），馬場（日本上下水道設計）（敬称略）出席12名，【欠席3名】

■配布資料：

- ・資料2-1 第1回システム性能を考慮した産業施設諸機能の耐震性評価研究委員会 (Phase2) 議事録（案），日本地震工学会 第2回システム性能評価委員会（次第）
- ・資料2-2 事業継続性の評価に基づく効果的な地震対策の選定手法
- ・資料2-3 損傷相関についての説明資料

■主な議事：

(1)委員の変更と新規参加について，次第のとおり説明があった（資料2-1）。

(2)副島氏（オブザーバ）より，製鉄工場を例とした復旧速度についての発表があった（資料2-2）。

- ・復旧速度は，製鉄工場を構成する各施設の耐震補強範囲や優先度等の，発注者の意思決定の指標として活用される。
- ・本事例は，予備系列のないシステムであった。PERTを用いて復旧期間を評価した事例であり，各工程に要する時間や各設備の復旧時間は確定した数値として取扱うものであった。（被災確率等を考慮したリスク評価とは異なる手法との説明があった。）
- ・建屋の耐震性評価は動的解析にて実施しており，フロアに設置された設備の耐震性は発注者へのヒアリング等により決定した。
- ・インフラ設備の復旧など，発注者のコントロール外にあたる事象の取り扱いに対する質疑や考察があった。
- ・仕掛品（ストック）等の状況による運転再開時間の変化についての意見があった。

(3)中村委員より損傷相関についての説明があった（資料2-3）。

- ・システムとしての地震リスク評価を行う場合，相関を考慮する必要性について説明があった。
- ・相関を考慮した損傷確率の評価方法と，相関を考慮した場合，考慮しない場合の復旧速度の差異についての事例紹介（水路式水力発電設備）があった。
- ・同じフロアに設置された配管設備等への相関の与え方についての質疑があった。

◎次回の予定：11月10日 or 13日（いずれも15:00～ 建築会館 会議室）を候補日とする。

話題提供（予定）：静間委員（システムリスク評価事例），古屋先生（土木・機械等の複合施設リスクを評価した事例） or 外部の方に依頼

以上  
（議事録：馬場）